



こまつ かいぞう
小松 快造
(つなぐ)

産業振興
教育

今年も北山小学校六年生に傍聴に来ていただきました。

令和の米騒動について

問 ①昨年からの米騒動の原因をどのように分析されているのか。

②市内の米不足の現状はいかがか。

③今年の米の収量予測は立てられているのか。

④市内で、ここ10年における稲の作付けの変動はあるのか。

⑤学校給食への影響は、提供されるのは古米・古古米・古古古米いずれか。

⑥市では利益の出ない稲作農業に対し何か対策があるか。

⑦日本の農業政策についてこのままでいいのか。

部長 ①市場における米不足、長年続いた減反

政策や、異常気象による収穫量の減少、農業従事者の高齢化による人手不足、資材高騰などの影響。

②現在は福島産を使用、福島産も不足気味今後の入荷予定なし。

③その年の耕作面積調査は行っているが、その年の収穫量予測は立てていない。

④2010年と2020年を比較すると約23% (5,818アール) 減少している。

⑤公益財団法人静岡県学校給食会と契約し現段階で令和6年産、県内産が確保出来次第切り替えていく。

⑥農業者の利益向上のため、農地中間管理事業の活用による農地面積の拡大、稲作に適した肥料購入費用の一部を補助する事業を行っている。

市長 ⑦「農業なくして国はなし」。農業は国にとって重要な産業。日本の活性化に無くてはならないもの。しかし高齢化、後継者問題など多くの課題を残している。傍聴に来られている皆さんに農業に関心を持ってほしい。



なかがめ きょうへい
仲亀 恭平
(つなぐ)

教 育
環 境

「おいしい給食」で富士宮を元気に！

～食育・地産地消・国際交流の推進～



問 福岡市教育委員会が学校給食を改善することが報じられた。富士宮市は大丈夫なのか。

部長 栄養士が3色食品群の揃った栄養バランス、季節を感じられる旬の食材を取り入れた献立を作成している。また、見栄えも考慮した給食を提供している。



問 最近の米価格の高騰が給食内容や運営に与える影響はあるのか。

部長 約1.3倍（前年度比）。栄養士が様々な工夫を重ねている。量や質は落としていない。

問 地元食材の給食使用率を伺う。

部長 地元食材：70.2%（国産食材：94.9%）※令和6年度データ

問 友好都市の食文化を取り入れた特別給食を提供してはどうか。

部長 日米対抗ソフトボール応援献立としてガンボライスを提供。



こども達に好評であった。今後、ネパールカレーなどの調理方法について研究していきたい。

安全に花火を楽しむために！

広がる「禁止」から、安心して楽しめる場所へ



問 市が管理する土地や公共施設で、期間限定でも花火ができる場所として開放することを検討できないか。

部長 火災リスクや夜間の騒音、ごみの不始末などに関する苦情が多発していることから公園内での花火を一律禁止としている。一方、市民から年に数回公園で花火をしたいとの問合せをいただく。自治会単位による公園内で花火ができないか検討していきたい。例えば1週間限定、指定曜日開放とか。

